



進路広報第132号

2022. 3. 23

発行 越谷南高等学校

進路指導部

題字 川嶋健二

「文武両道」

校長 新井和徳

3月9日、3年生が卒業しました。感動的な卒業式でした。その日、某国立大学の合格発表があり、本校生徒がみごと合格したという報告を受けました。私にとっても二重の喜びでした。3年生は、授業はもちろん早朝や放課後にも真剣に勉強する姿をよく目にしました。決して諦めない、へこたれない人間力をもった卒業生を、私は誇りに思います。

1、2年生は、いよいよこの春、進級して次のステップへと進みます。2年生というのは、これまで以上にしっかりした越南生になる学年で、3年生は真の受験生になる学年というイメージを持っています。2年生には、受験を意識して準備を始めることと、新入生を迎え、先輩として越南の行事や部活をリードすることを期待します。3年生には、部活の集大成として全力を尽くすとともに、「受験生」としての自覚をもって勉学に集中してほしいと思います。いずれの学年にも望みたいことは、最後まで文武両道を極めて自己実現を図ることです。

さて、ここで「文武両道を極める」とは何か、私なりの考えを述べなければなりませんね。まず、その前に、「一流になるには一つに集中すべき、そうでなければ二流に留まる」とか、「二兎を追う者は一兎をも得ず、一兎も得ない者は二兎を追うフリをする者である」という文武両道に批判的な見解がありますが、どう思いますか。確かに難関大学に入るために部活は控えるとか、プロまで視野に入れて部活漬けになるという高校生もいるでしょう。文と武を勉強と部活という別ものとするなら、どちらか一つに絞ることも悪くありません。しかし、文と武を、文芸と武芸、頭と体、知性と感性、精神と肉体というような表裏一体のものとするなら、文武の両方とも備えることが大事にみえてきます。

文武両道とは、もともとは武士道から派生しているようで、江戸時代の陽明学者、中江藤樹は、「文と武は元来一徳であって、分かつことができない。したがって、武なき文、文なき武は共に真実の文ではなく、武でもない」と説いています。つまり、「徳」というのを人間力と置き換えれば、「文」も「武」も人間力を高めるための道ということなのだと思います。人間力とは何か、自身ではあまり実感できないものだと思います。しかし、文と武の成果がどうだったか、それは客観的に見えてきます。だから、文・武は人間力を映す鏡だということもできます。文武両道を極めるとは、「知」としての勉強、「体」としての部活動等で、「徳」、すなわち人間力を高めることだと考えます。これがまさに本校の校訓「知・徳・体 文武両道」です。文武両道とは、いたって日本的な価値観なのかもしれません。しかし、今年、進路実現に挑んだ卒業生をみていると文武両道を極めることが成功への王道だったように思えます。



炭次郎に扮した校長先生の勇姿（文化祭開会式）

